

# 学励コース「医療専攻」たより



新潟県立新潟西高等学校 Vol.3 平成28年7月20日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。→ 新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

○平成28年7月6日(水) 13:30~15:30 医療講演会

対象：1年生学励コース(全員・81名)

講師：荒川 正昭先生(元新潟大学長・医師)

演題：「新潟西高校普通科学励コース(医療専攻)の若者に期待する。

・・・理・文系どちらを志望する若者にも聴いてほしい人間の生き様」

会場：新潟西高等学校 会議室



## 荒川正昭(あらかわ まさあき)先生

### PROFILE

昭和55年/新潟大学医学部 内科学第二講座教授

平成6年/新潟大学医学部長

平成10年/新潟大学長

平成14年/新潟県福祉保健部参与(～現在に至る)

平成16～19年/大学入試センター理事長

平成22年/新潟県健康づくりスポーツ医科学センター長  
(～現在に至る)

平成24年/一般財団法人新潟県地域医療推進機構理事長,  
新潟大学名誉教授,大学入試センター名誉教授・顧問,  
日本内科学会,日本腎臓学会,日本リウマチ学会,  
日本心療内科学会名誉会員,など

荒川正昭先生は、長らく新潟大学医学部で医師として、また教授として教鞭をとられて御活躍されてきました。現在は「新潟県福祉保健部参与」・「新潟県健康づくりスポーツ医科学センター長」として、「肥満・糖尿病・メタボリックシンドロームの予防」・「生活改善に関する外来診療や相談」・「スポーツ選手の医学サポート」の面から、県民の健康に広く貢献されています。さらに、「新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・魚沼基幹病院」を運営する「新潟県地域医療推進機構理事長」として、多忙な毎日を送っていらっしゃいます。

新潟西高等学校の「医療専攻」プログラムは、今年度新入生の該当者が第5期生となります。荒川先生は本校の「医療専攻」プログラムをスタート時から応援してくださっていますが、その御縁から今年度も新入生学励コース全員に向けて御講演を賜ることとなりました。幕開けの「医療」「看護」「病院」「大学」について歴史を遡ってのお話から、「大学」に進学する意義、「体力・気力・学力」の増進の意義、人間が生きる上で必要不可欠なことを先生の豊かな人生経験からお話いただきました。質疑応答の場面では誠実に御回答くださり、医師・教育者としての真摯かつ温かなお人柄に触れることができました。来年度、2年生での「医療専攻」のメインプログラムを希望する生徒は勿論のこと、他の学励コースの生徒にとっても、人間的成長と進路実現を志す契機となりました。



【1年生普通科学励コース生徒全員の受講風景】



【御講演後の質疑応答】積極的に質問しました

### 来年度、医療専攻第5期生を希望している生徒は現時点(1年生・7月)で18名です。

医療専攻プログラムの本格始動は2年生ですが、1年生のためには3回の講演会が予定されています。今回の第1回講演会は学励コース全員対象ですが、特に医療専攻第5期生を希望する皆さんために、講師の荒川先生のプロフィールを事前に配付しました。事前にインターネットなどで荒川先生のお仕事について調べて講演会に臨みました。また座席も、前列中央部分に用意しました。先生のお話にしつかりと耳を傾け、医療従事者をめざす生徒への励ましを受けとめたことでしょう。

講演後には、質疑応答の時間をいただきました。先生のお話を聴いて考えたこと、医療を志すにあたって不安や疑問に思っていることなど、積極的に質問ができました。

医療専攻では、コミュニケーション能力を各人が伸ばすことをまずはめざしています。第5期生希望者が率先して発言することで、この機会は実り多いものになりました。

### 生徒の感想

荒川先生から、「大学は職業に就くための場ではなく、人格錬磨の場である。」とお聞きして、正直驚きました。高校を卒業しただけでは就職するのは難しいと聞いていたので、大学に行くのは仕事に就くためだと思っていました。しかし、それは大きな間違いで、大学は「人間として成熟するための所」だと分かりました。また、先生の医学の立場からのお話で、「3時間、医学書を読むことも大切だが、15分、患者さんのそばにいて心を和らげることも大切だ。」ということにも感動しました。医療の勉強とは、医学書を読んだり、テストで良い点数をとったりすることだと思っていました。しかし、「医療」とは人と人との関わりであり、それを大切にしなければならぬことが分かりました。  
(1年学励コース・医療系志望)

今日の講演をお聴きして、「人に対する思いやりの心」の大切さを改めて考えることができました。「知識」はもちろん大切ですが、「人としてあるべき姿」が大切であり、それがないと周囲の人から信頼が得られないことが分かりました。さらに驚いたことは、「医者にとっての一番の先生は患者さんである。」という、荒川先生のお言葉でした。こういう信頼しあう気持ちがあるからこそ様々な面での治療ができるんだなあ、と思いました。  
(1年学励コース)

- ①「誘惑」から逃げ、学習方法を確立し、徹底的に勉強をするべきだ。
- ②医療従事者は人のために働くのだ。頑張れない人間は辞めなさい。
- ③「看」という字の源は「温かい手とまなざし」だ。
- ④若者には無限の可能性があるのだ。大きい夢と高い志を持ちなさい。
- ⑤(頑張ったうえで)「限界」を感じることはすごく大事なことなのだ。
- ⑥「栄養摂取・運動・休養」を心がけること。規則正しい生活リズムと、体力・気力の充実無くして学力の向上は図れない。・・・以上のお話、特に印象に残りました。  
(1年学励コース)